風土をささえる鶴岡の水、みんなで守ろう！未来のために

21世紀を目前に、少子高齢化時代を迎え、月山ダムから受水する広域水道事業は、私たちだけでなく、将来の子ども達にも大きな負担、問題をもたらそうとしています。現状（○安全でおいしい地下水、○県内一安い水道料金、○庄内の文化、風土を育む月山からの恵みの地下水）の水道が、（▲薬品投入量が増え質のおちるダム表流水▲値上げ前の約2.5倍と、全国一レベルの高額水道料金）になろうとしています。

切り替え直前、瀬戸際の署名運動です。工事は完成に近いですが、矛盾点が多すぎます。今、私たちの声が、未来の鶴岡、庄内を救います。未来に悔いを残さぬよう、ご署名、ご協力お願いします。

今ならまだ間に合います！

平成11年11月1日　　署名よびかけ団体・送り先：ウォーターワッチ・ネットワーク

住所：〒997-0034　鶴岡市本町1-5-13　お問い合わせ：電話 28-3338　FAX 28-3009

（銀座通り、しあわせ銀行向かいに事務所、ポストあります。11月15日第一次集約、お早めに投函を。
また、ご意見等を裏面へどうぞ。なお、上記事務所で毎週水曜日、午後7時より水道問題の相談をおこなっています。
どうぞおいで下さい。ホームページでも矛盾点を指摘してます。　www.jca.ax.apc.org/water-w/

月山ダム、庄内南部広域水道からの受水凍結・見直しを求める署名

山形県知事　高橋和雄　　殿
鶴岡市長　　富塚陽一　　殿

鶴岡市水道は、昭和55年（1980年）人口増加などにより将来的に地下水源が不足するという予測のもと、県の庄内南部広域水道事業への参加を決めました。しかし、その後、人口が増えないまま、少子高齢社会に突入し、当時計画した水需要にはとても達しない見通しとなりました。　このような状況の中で、市水道は、2年後の平成13年（2001年）から県広域水道から水を買い受けることになります。県から受水する契約水量1日7万2千トンは、現在、鶴岡市民の水道使用量4万5千トンより2万トン以上も水を余す非常に過大な量です。

鶴岡市民10万人は、おいしくて安全かつ豊富な自己水源である地下水源を放棄して、ほぼ全面的に月山ダムの水を飲むことを余儀なくされます。その結果水の質が落ち、何よりも水道料金は現在の2.5倍～3倍になることが予想されます。これは市の全家庭に、将来にわたって大きな負担となり、また「麦きり」など鶴岡の伝統の味を伝える飲食店、旅館、観光にとっても死活問題です。

私たちは、必要以上の投資による水道料金の負担が増えることを止め、鶴岡の風土を守るため、地下水源からの水道の維持を求め、庄内南部広域水道からの受水の凍結・見直しを求めます。

氏名	住所	年齢	印/サイン

再生紙100%使用